



しゅんせつ船^{せん なに}って何をするの

港^{みなと}や川^{かわ}の底^{そこ}にあるどろをかきとる

あなたは、港^{みなと}で、漁船^{ぎよせん}や客船^{きゃくせん}などの船^{ふね}とちがって、やぐらのようなものをつけている船^{ふね}を見たことがありますか。同じ所^{おなじところ}にじっとして、何か^{なに}をくみ上げるような作業^{さぎょう}をしていますね。あの船^{ふね}を、「しゅんせつ船^{せん}」といいます。

しゅんせつ船^{せん}は、海^{うみ}の底^{そこ}や川^{かわ}の底^{そこ}の土砂^{どしゃ}をすくいとって、水深^{すいしん}を深く^{ふか}する仕事^{しごと}をしているのです。船^{ふね}には、しゅんせつ用^{よう}の機械^{きかい}を備え^{そな}え、川^{かわ}や港^{みなと}の工事^{こうじ}に使^{つか}います。

しゅんせつをして、港^{みなと}の水深^{すいしん}が深^{ふか}くなると、船^{ふね}が通^{とお}りやすくなります。また、川^{かわ}や湖^{みずうみ}がしゅんせつされると、川^{かわ}では河水^{かすい}の通^{とお}り道^{みち}が広^{ひろ}くなり、湖^{みずうみ}では水^{みず}をたくさんためることができるようになるのです。

しゅんせつされ、ほり出^だされた土砂^{どしゃ}は、うめ立^たてなど^{つか}に使^{つか}われます。

最近^{さいきん}では、水深^{すいしん}を深く^{ふか}する仕事^{しごと}のほかに、害^{がい}があるものをたくさんふくむ土砂^{どしゃ}などを、公害^{こうがい}対策^{たいさく}や環境^{かんきょう}対策^{たいさく}の上^{うえ}から、取り除^とく作業^{さぎょう}も行^{おこな}われています。

4つのタイプがあるしゅんせつ船^{せん}

しゅんせつ船^{せん}には、ポンプしゅんせつ船^{せん}、ディッパーしゅんせつ船^{せん}、グラブしゅんせつ船^{せん}、ドラグサクシオンしゅんせつ船^{せん}の4つのタイプがあります。

ポンプしゅんせつ船^{せん}は、ポンプで土砂^{どしゃ}を吸^すい上げ、ディッパーしゅんせつ船^{せん}は、パワーショベルのようなディッパーで、土砂^{どしゃ}をかきあ^あげます。また、グラブしゅんせつ船^{せん}は、グラブバケットを底^{そこ}に落^おとして、土砂^{どしゃ}をつかみあ^あげ、ドラグサクシオンしゅんせつ船^{せん}は、船^{ふね}を走^{はし}らせながら、土砂^{どしゃ}を吸^すい上げます。（監修・青木 国夫）

